

R 6 南アルプス市立櫛形中学校 学校関係者評価書

南アルプス市立櫛形中学校関係者評価委員会	
<p>学校関係者評価委員会</p> <p>実施日：令和7年1月20日（月）午後2時00分～3時40分</p> <p>会 場：南アルプス市立櫛形中学校 校長室</p> <p>参加者：学校関係者評価委員</p> <p>【学校評議員】 渡邊寿子 河野木綿子 中込和彦 小林直樹 梅本澄雄（欠席）小松謙一（欠席）</p> <p>【PTA関係】 山田加菜子（会長）三井奈々恵（前会長 欠席）</p> <p>【学 校 側】 笹本忠彦（校長） 矢崎恭央（教頭） 横小路亮（教頭）</p>	
<p>学校関係者評価委員会 協議内容</p> <p>（1） 自己評価書について</p> <p>① 教職員の自己評価，生徒及び保護者のアンケートの結果について</p> <p>② 今後の方針(改善策)について</p> <p>（2） 学校関係者評価委員からのご意見</p>	
<p>《学校関係者評価委員の意見の集約》</p> <p>I 学校教育目標・学校経営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校長の教育的リーダーシップの元，日々全職員が一致団結して生徒たちのための学校経営がすすめられている。 ・ 少子化が進み，他地域では合併が進んでいる中，単独校として存続していくことは大きなことだと思われる。櫛形中学校が地域に誇れる学校であり続けるために，地域や保護者が気軽アドバイスしたり意見が言えたりできるシステム作りに努めて欲しい。 ・ 学校教育目標の「豊かな心」に関わる部分が学校の存在意味として重みを増していると思う。 ・ 生徒，保護者ともに全体的に高い評価になっていることは，日々の取り組みの成果だと思うが，この数値だけに満足せず，悩みを抱えていたり，ひとりで孤立していたりしている生徒を見落とすことなく，きめ細かい丁寧な対応を心掛けて欲しい。 ・ 保護者アンケートが学校運営にとっても大きな意味があるということが分かった。ぜひ，次年度の学校運営のためのPDCAサイクルをまわす上で今回の意見をしっかりと生かしてほしい。 <p>II 学習指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の自己評価が厳しい数値になっているのは，教師側が自己に厳しく，校訓「高等彼岸」を常に意識し，発展的に取り組んでいる結果だと思う。生徒アンケートの学習や授業に関わる項目において肯定的な回答が多いことからそのことが推察できる。 ・ 各種調査のデータを分析することは，教員にとっては時間的にも技術的にも難しいが，県総合教育セ 	

ンターの研究指定を受けたことで、山梨大学がその作業を行ってくれている。その報告を基に、本校の状況を詳細に把握でき、授業改善につなげている。

- ・ICTの利活用に関わる研修については昨年、今年と市の研究指定校ということで、その機会は多いようだが、今後も効果的な活用については継続して取り組んで欲しい。

Ⅲ 生徒指導について

- ・下校時に、教師がいるときは、道路の左側を一列になり、整然と下校している姿がある。教師がいない時でもそのような行動ができる生徒になって欲しいと思うが、日頃、教師の指導をきちんと受け入れていることが表れている。
- ・スマホやSNS等の使用について、保護者とも連携して指導していく必要がある。それぞれの家庭の実情に応じて、使用に関するルールを決めることなど今日的な問題に関する注意喚起も必要ではないか。
- ・今年度もPTA総会の前に県警の方を講師となってSNSの使い方の講演を実施したが、もう少し多くの保護者が参加できる設定をした方が良いのではないか。
- ・生徒アンケートでは「困ったことが相談できる友達や先生がいるか」の項目は両者とも昨年度より高い数値になっているので、これに満足せず、さらに数値を伸ばせるように散り組みを進めて欲しい。

Ⅳ 保護者・地域との連携について

- ・「学校だより等」を通して学校の様子がよくわかる。学校だよりだけでなく、一斉メールやCATVなどで学校の教育活動が保護者に周知されるよう発信方法を工夫していることが分かった。今後も継続して配信方法の工夫を重ねるとともに、懇談時などでも保護者からの意見を聞く場を設けるなどの工夫をしてほしい。
- ・学校活動において、地域人材の活用については、市をはじめ地域の関係機関とも積極的に連携を図ることで効果的な活動になっていくと思う。今年度は市の商工会から職業講話の講師を、さらに人材バンク等から平和教育の講師、人権教育に関しては弁護士の方をそれぞれ派遣していただき授業を行う。今後も継続し、発展した活動にして欲しい。

Ⅴ その他

- ・ICTの利活用だけでなく、教員としての知識や技能、資質の向上のためにも、生徒たちのために先進的な研修等に積極的に取り組む姿勢を継続するとともに、研修を受けることをよしとする学校体制を構築して欲しい。
- ・校内研究や学校の体制において、一部の職員で進めるのではなく、全ての職員が共通理解した中で、同一歩調で進めていきたい。一人の100歩ではなく、100人の一歩という姿勢が大切だと思う。

記載責任者：楡形中学校 学校関係者評価委員会

事務局